

平成27年12月7日（月）15:00～15:40
東海地区大学図書館協議会
図書館職員基礎研修（第5回）

分類・目録

名古屋大学附属図書館
情報システム課図書情報係
小島 由香

講義内容

1. 目録をとる前に
2. 目録について
3. 分類について
4. これからの目録業務

1. 目録をとる前に

必要な知識

- a. 資料の各部名称
- b. 各種言語・文字・活字
- c. 出版・製本事情

1. 目録をとる前に

a. 資料の各部名称



標題紙
(title page)

画像出典: Shakespeare's First Folio - The British Library (URL: <http://www.bl.uk/collection-items/shakespeares-first-folio>)



題簽

四つ目綴

画像出典: 名大システム 古典籍内容記述的データベース (URL: <http://libst1.nul.nagoya-u.ac.jp/wakan/pdf/10062141.pdf>)

1. 目録をとる前に

b. 各種言語・文字・活字

- ラテン文字
 - キリル文字
 - アラビア文字
- etc...

ゴシック体

Christian Thomassens,
1811 und Königlich Preussischen Rathes

Einleitung
Zu der
Vernunft- = Lehre,
Vorinnen

Durch eine leichte, und allen vernünftigen Menschen, waserley Standes oder Geschlechts sie seyn, verständliche Manier der Weg gezeiget wird, ohne die Sylogistica, das wahre wahrscheinliche und falsche von einander zu unterscheiden, und neue Wahrheiten

画像出典: HathiTrust (URL: <http://babel.hathitrust.org/cgi/pt?id=uva.x004506206;view=1up;seq=5>)

<http://babel.hathitrust.org/cgi/pt?id=uva.x004506206;view=1up;seq=5>

2. 目録について

目録とは

- ・ 資料を見つけるために提供される
ツール

閲覧用 [検索機能]

- ・ 所蔵資料を適切に管理するための
ツール

資産・蔵書管理用 [管理機能]

2. 目録について

目録の種類[形態]

- a. 冊子目録
- b. カード目録
- c. オンライン目録

2. 目録について

a. 冊子目録

- 全体像を提供する手段として有効。（コレクションなど）
- 目的をもって独自の編集方針で編纂され、詳細に記述される場合がある。

2. 目録について

目録の種類[機能]

a. 蔵書目録

–OPAC

(Online Public Access Catalog)

b. 総合目録

–書誌ユーティリティ

c. その他

2. 目録について

b. 総合目録

2館以上の図書館の目録を総合して編集した目録で、図書館間の相互利用促進の役割を果たす。

－ 書誌ユーティリティ

書誌データを共有して提供する機関で、代表的な機関としては、OCLC(Online Computer Library Center)がある。

2. 目録について

c. その他

- 各種横断検索サービス
- ウェブスケールディスカバリ
(WSD: Web Scale Discovery)
- リンクリゾルバー
- ERDB(Electronic Resources Database)
「電子リソース管理データベース」

2. 目録について

主要な目録規則

a. 英米目録規則 第2版改訂版

AACR2(Anglo-American Cataloging Rules)

b. 『資源の記述とアクセス』

RDA(Resource Description and Access)

c. 日本目録規則1987年版改訂3版

NCR(Nippon Cataloging Rules)

• 国際標準書誌記述

ISBD(International Standard Bibliographic Description)

2. 目録について

a. AACR2 第2版改訂版

- パリ原則 (1961年)に基づく
著者基本記入制を基本モデルとする。
カード目録を前提
- 資料種別ごとに展開

2. 目録について

b. RDA

- 2010年6月発表
- 国際目録規則(CIP)(2009年)¹⁾に基づく
 - 『書誌レコードの機能要件』
(**FRBR**:Functional Requirements for Bibliographic Records)(1998年)を基本モデルとする。
 - 著作 work / 表現形 expression / 体現形 manifestation / 個別資料 Item

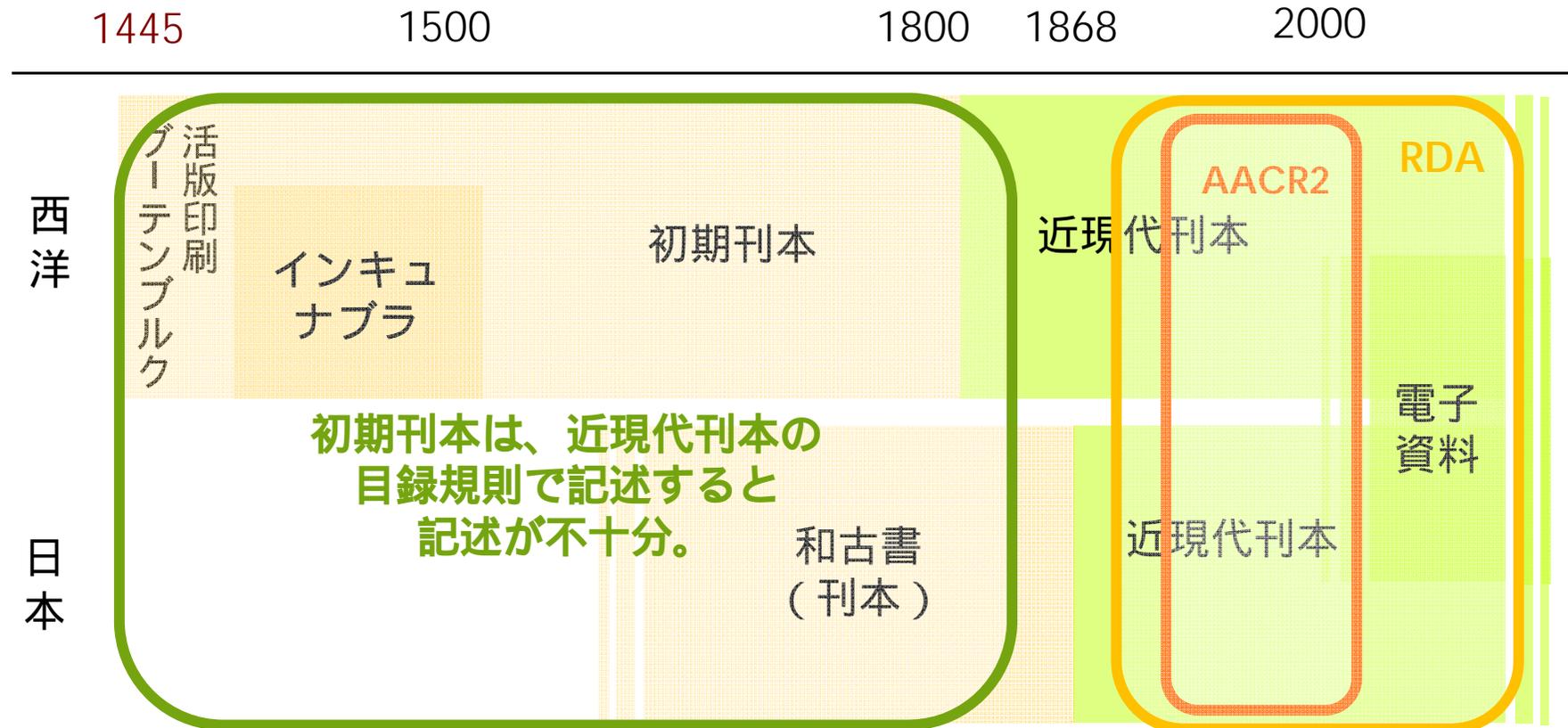
2. 目録について

b. RDA

- 「実体/属性/関係」という概念に沿って展開
 - FRBRの概念の理解が不可欠
- 基本的にオンライン(RDA-Toolkit)で提供。(紙版²⁾もあるが修正が多いので推奨されていない。)
- NDLが日本語への翻訳作業中³⁾

2. 目録について

AACR2とRDA



2. 目録について

c. NCR

- 1942年版 初版 著者基本記入方式
- 1965年版 パリ原則へ対応
- 新版予備版(1977) ~
 - 記述ユニット・カード方式

2. 目録について

c. NCR

- 資料種別ごとに展開
- 日本図書館協会(JLA)目録委員会が、NDLと連携し、全面改訂作業中
- 2017(平成 29)年度公開予定⁴⁾
- FRBRモデル・RDAに対応予定

2. 目録について

ISBD

- IFLA(国際図書館連盟)が策定。
- 書誌情報を構成する諸要素を明示し、記録順序、区切り記号法を規定したものの。

3. 分類について

分類とは

- 資料の分け方・並べ方
 - 例) 主題順/受入順/著者順
- 知識体系の組織化
- 書架分類から書誌分類へ

3. 分類について

主な分類法(表)

a. デューイ十進分類法

DDC(Dewey Decimal Classification)

b. 米国議会図書館分類法

LCC(Library of Congress Classification)

c. 国立国会図書館分類表

NDLC(National Diet Library Classification)

d. 日本十進分類法 新訂10版

NDC(Nippon Decimal Classification) etc...

3. 分類について

a. DDC

- 十進体系。数字のみの体系で、理解しやすい。
- 標準分類表として公刊され、広く採用されている。
- 新主題の扱い等、区分力に限界がある。

3. 分類について

b. LCC

c. NDLC

- 非十進体系、アルファベットと数字を使用。
- LCおよびNDLがそれぞれ自館の資料を分類するために作成した一館分類表。

3. 分類について

d. NDC

- DDCと同じく、十進体系。数字のみの体系で、理解しやすい。
- DDCより区分・排列が合理的
- 標準分類表として公刊され、日本で広く採用されている。

3. 分類について

NDC新訂10版

- 2014年12月刊行
- 9版からの変更点
 - 体系に変更なし
 - 新主題・新用語の追加
 - より使いやすい構成へ etc...

4. これからの目録業務

図式化すると...



4. これからの目録業務

NACSIS-CATの今後

- 「目録システム講習会」の終了⁵⁾
- 「これからの学術情報システム構築検討委員会」にて検討中⁶⁾⁷⁾

4. これからの目録業務

終わりに

- 現在は過渡期
- 電子資料と冊子体を同じ規則で
- 書誌データを共有する
(メタデータの世界?)
- 書誌データ同志をつなげる

4. これからの目録業務

参考文献

1. 国立国会図書館収集書誌部翻訳. “書誌データの基本方針と書誌調整：目録に関する国際的な動向”. 国立国会図書館. http://www.ndl.go.jp/jp/data/basic_policy/international/ICP.html. (参照 2015-11-19)
2. “RDA Print”. RDA Toolkit. <http://www.rdatoolkit.org/rdaprint>. (参照 2015-11-19)
3. 収集・書誌調整課. Resource Description and Access” (RDA) の日本語訳について. NDL書誌情報ニュースレター, 2014, (3).
http://www.ndl.go.jp/jp/data/bib_newsletter/2014_3/article_06.html. (参照 2015-11-19)
4. 日本図書館協会目録委員会. “『日本目録規則』改訂スケジュールの見直しについて”. 日本図書館協会. <http://www.jla.or.jp/Portals/0/data/iinkai/mokuroku/schedule201509.pdf>. (参照 2015-11-19)
5. 国立情報学研究所学術コンテンツ課. “今後の目録システム講習会全体の考え方について”. 国立情報学研究所目録所在情報サービス. https://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/infocat/pdf/ref1_guideline_2015.pdf. (参照 2015-11-19)
6. “これからの学術情報システムの在り方について”. これからの学術情報システム構築検討委員会. http://www.nii.ac.jp/content/korekara/archive/korekara_doc20150529.pdf. (参照 2015-11-19)
7. “NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について (基本方針案の要点)”. これからの学術情報システム構築検討委員会. http://www.nii.ac.jp/content/korekara/archive/korekara_doc20151027.pdf. (参照 2015-11-19)